

2020年1月30日
東京ガス株式会社

2019年度（2020年3月期）第3四半期決算発表説明会

Q&A

Q1：都市ガス販売量について、第3四半期の高気温による影響はどの程度であったか。また、足元の暖冬傾向について、第4四半期の気温の見直しは行っているのか。

A1：対前回見通しにおける都市ガス販売量の気温影響が▲47百万m³となっており、この大部分が第3四半期の高気温による影響と考えている。第4四半期の気温については、元々近年の暖冬傾向を織り込んだ気温であること、また、急な寒波による販売量の増加の可能性もあること等から見直しは行っていない。

Q2：対前回見通しにおいて、都市ガス粗利が高気温影響により▲28億円となっている中、固定費が25億円減少している。これは、自然減を反映したものであるのか、それとも暖冬影響を考慮した経費縮減効果であるのか。

A2：厳しい業績を受け、削減可能な経費を洗い出し、削減に向けた取り組みを行っている効果である。削減内容については様々な内容が含まれるが、期中に反映できるものを精査して織り込んでいる。

Q3：冬場の需要期もLNGスポット価格は低迷しているが、都市ガスのスライド差を見ると対前回見通しで+10億円となっている。第2四半期における、TGのLNGスポット比率が全日本に比べて低かった状況がどのように変化し、今回見通しに織り込まれているのか。

A3：第3四半期においても、当社のLNGスポット比率が全日本に比べて低い状況は変わっておらず、第3四半期で顕在化したスライド悪化影響を新たに織り込んでいる。一方、フレーム影響によるスライド改善が見込まれており、両要因を合計した結果+10億円となった。

以上